



図1 脳波発生メカニズムのモデル

a. 皮質表面で記録される脳波発生メカニズムのモデルは、皮質内にある垂直方向に伸びた2つの錐体細胞とその皮質表面付近に水平に伸びる樹状突起、そこにシナプスを形成する2本の求心性神経線維で構成される。2本の求心性線維にはそれぞれ、電極E1、と電極E2が刺入されている。2本の樹状突起にはそれぞれ電極E4とE3が刺入されている。皮質表面には電極E5が置かれている。b. 上から順に、電極E5で記録される集合電位のうち時定数1秒以下で記録した場合 (5b)と、無限大の時定数で記録した場合 (5a)である。電極E4、E3から記録される膜電位がそれぞれ4と3である。電極E2、E1から記録される活動電位がそれぞれ1と2である。(Speckmann and Elger, 1999より引用)